

お 知 ら せ
平成28年1月21日
長崎地方気象台

「あびき」にご注意ください

九州西岸及び奄美地方では、大きな「あびき」が発生しやすい時期（晩冬から春）を迎えます。気象台の発表する潮位情報にご注意ください。

湾や港内の海面が数分から数十分の周期で昇降を繰り返す現象（潮位の副振動）を九州西岸の地域では「あびき」と呼んでいます。大きな「あびき」では、海面の昇降や強い流れが繰り返し発生することにより、海岸や河口付近の低地での浸水、港湾施設の破損、係留している船舶の流出・転覆等の被害が生じることがあります。

特に九州西岸や奄美地方では、2月から4月にかけて大きな「あびき」の発生が多くなるため、潮位の情報に注意する必要があります。

大きな「あびき」（副振動）が発生した場合は、気象台が潮位情報を発表します。また、低地での浸水が予想されるときは高潮警報・注意報を発表しますので、気象台が発表する潮位情報や高潮警報・注意報に十分留意してください。

潮位情報や高潮警報・注意報は下記ページで確認することができます。

気象情報（潮位情報）：

http://www.jma.go.jp/jp/kishojoho/348_index.html

警報・注意報：

<http://www.jma.go.jp/jp/warn/348.html>

【本件に関する問い合わせ先】

長崎地方気象台 電話：095-811-4862

1. 「あびき」とは

「あびき」とは、日々繰り返す満潮・干潮の潮位変化を主振動としてそれ以外の潮位の振動（副振動）に対して名づけられたものであり、湾・海峡や港湾など陸や堤防に囲まれた海域等で観測される、周期数分から数十分程度の海面の昇降現象をいいます（図1）。

「あびき」の語源は早い流れのため魚網が流される「網引き」に由来するといわれています。

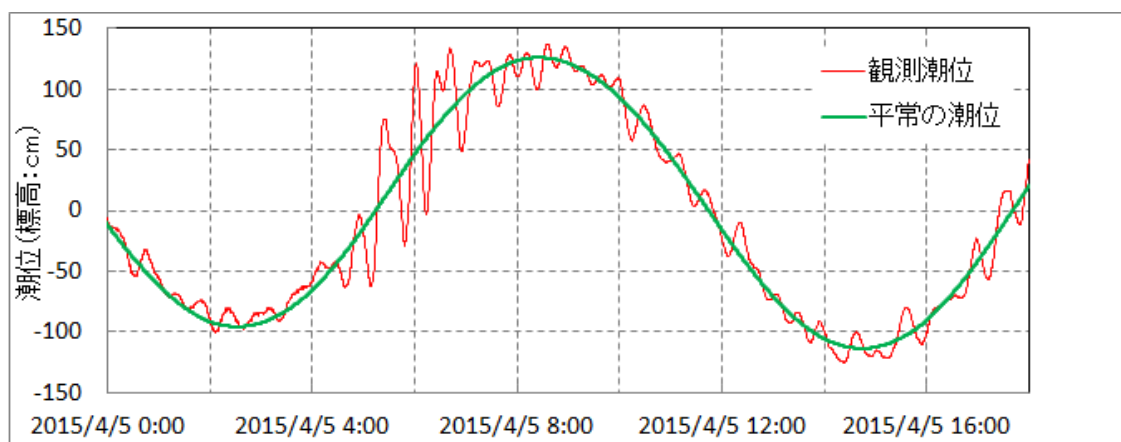


図1 「あびき」の観測事例（2015/4/5 長崎港）
短い時間で海面の高さが大きく上下しています。

九州西岸や奄美地方では大きな「あびき」が発生しやすく、毎年3月を中心に2月～4月にかけて多くなることがわかっています（図2）。

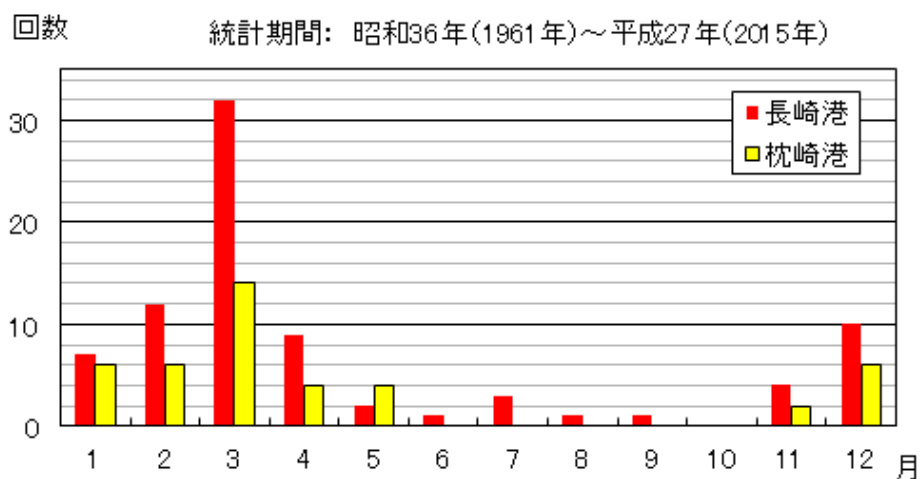


図2 「あびき」の月別発生回数
（長崎港（長崎県）と枕崎港（鹿児島県）における100センチ以上の回数）
発生は冬から春にかけて多く、2月から4月で全体の6～7割を占めています。

2. 「あびき」による被害

大きな「あびき」が発生した場合には、海面の昇降や強い流れが繰り返し発生することにより、海岸や河口付近の低地での浸水、港湾施設の破損、係留している船舶の流出・転覆等の被害が生じることがあります。

過去の「あびき」の記録としては、1979年（昭和54年）3月31日に長崎検潮所（長崎県）で観測されたもので、最大全振幅が278センチに達しました。



1979年3月31日の長崎県福江島の富江港での被害（福江海上保安署撮影）※



2009年2月25日の鹿児島県上甕島での道路冠水（薩摩川内市上甕支所撮影）

近年の「あびき」による主な被害事例

発生日	被害の発生場所	被害状況
2009年2月25日	熊本県天草市	床上・床下浸水
	鹿児島県薩摩川内市上甕島	床下浸水、小型漁船の沈没・転覆
	鹿児島県いちき串木野市	小型漁船の沈没
	鹿児島県南さつま市	小型漁船の転覆
	鹿児島県屋久島町	小型漁船の小破
2009年7月15日	山口県萩市	床上・床下浸水
	長崎県対馬市	床上・床下浸水、小型漁船の転覆・破損・浸水
2010年2月1日	鹿児島県薩摩川内市上甕島	床下浸水
2010年3月1日	長崎県長崎市	床上浸水
2010年3月3日	鹿児島県薩摩川内市上甕島	小型漁船の転覆
2010年3月4日	長崎県長崎市	床下浸水

※（西部海難防止協会「津波（長崎港アビキ）対策調査委員会報告書」（昭和57年3月）より）